

第3回定例会

3名の議員が理事者の考えを質しました。

・一般質問

一 般 質 問



但木早苗議員

雇用の問題について

【質問】共産党佐呂間支部が行った町民アンケートに多くの方々からご意見、ご要望をいただきました。その中で町が対応可能な9項目を緊急要望書として町長に提出したところですが、

中でも、どの年代においても一番関心が多かったのが、若者の雇用についてでした。高齢化が進む中で若者の雇用の確保、若者の定着というのは大きな課題だと思いますが、町長の考えをお伺いします。

【答弁】（町長）

高齢化が進む中で若者の雇用確保と町に活気を与える働く場の創出については、一番大切なことだと認識に立っています。

自立の町を決めたからには、身の丈に合ったまちづくり

若者の雇用促進に

対する考えは？

町長へ若者の雇用促進のみならず

定住にもつながる支援を進めたい。

りをせざるを得ない状況の中、経費削減に取り組まなければならぬ、と同時にこれからのまちづくりをどうするかという夢、ビジョンを同時進行で考えなければならぬという課題もあります。

雇用の場として、第1次産業の農業、漁業、林業の振興や商工業への支援、更に医療、福祉、教育文化等全ての項目が町を支える若者の定住にかかってくることになりまして、今後とも若者が戻ってくるまちづくりを果敢に押し進めたいと思っております。

【質問】町長答弁のように広い分野で考えていくことが望ましいと思っております。中でも福祉は本当に雇用の場を生むと考えています。

しかし身の丈にあったまちづくりでの経費削減、やはり人件費がネックになると思っ

ています。

のですが、かけるところはかけていくという姿勢がなければ取り組めないと思います。町長はそういう腹づもりはあるのでしょうか。

【答弁】（町長）

開基120年の中で苦勞してきた方がそこに住んでる訳で、その方々にしっかりと支援、手助けをさせて頂きたいという形で、この部分については、私はお金を惜しまないことをお約束させて頂きたいと思っております。

学童保育の

充実について

【質問】町長にはきちっとしたものをつくってから始めたものの思いがあったのです。が、冬休みを乗り切るためにと児童館で始まり働くお母さん

方にはとっては大きな支えになったと思います。でも児童館でいつまでもできるものではないと思います。

学童保育は子どもたちが安心してランドセルを背負って「ただいま」と帰って来る所であり、生活する場ですから、専用の場所と専任の指導員の配置が必要かと思えます。学童保育の充実に向け今後どう進めていくのかお伺いします。

【答弁】（町長）

私自体も決して児童館の中の学童保育が望ましいとは考えていませんが、実際のところ夏、冬、春休みや放課後の希望者は多くないですし、現在の形であれば一般の子供もランドセルで通う子供も一緒に活動することで交流もできるわけです。また職員も一人は児童厚生員、もう一人については幼稚園教諭の資格を持っています。

学童保育の充実については今後、各学校も含め希望を募っているの、現状の報告と子供の数が多くなった段階でいろいろな構想を皆さんと相談し、その対応をしっかりと図って行きたいと考えています。

第3回定例会

・一般質問



船木 淳一 議員

第3期総合計画の検証をし、第4期計画に反映させるべき!

町長へ第3期の検証は各部会で行い、第4期に反映させると共に、住民周知も行います。

第3期総合計画の検証について

【質問】現在、第4期佐呂間町総合計画の策定に向け、総合計画策定審議委員会で協議を進めているところですが、2010年度終了の第3期総合計画の検証をもって新しい計画の策定にスタートすべきだと思います。

策定に反映させるべきと強く思います。

また、タイトル等も文学的な難しい表現ではなく、一目で内容が理解できる文体の使用が良いと思いますが、計画策定案を諮問している町長の考えをお伺いいたします。

第3期総合計画の課題解決、事業計画の達成状況及び未解決課題等の総合的な検証を踏まえるのと、昨年暮れからの町民意向調査の中で設問事項以外に自由意見の記述欄がありました。私は、ここに記入されている文言こそが、現在、町民が考えている生の気持ちが見れているものと思われま

す。これらの内容を整理して町民に報告、公表すると共に、それらに基づいて第4期計画

【答弁】(町長)

第4期総合計画は現在、35名の審議委員が3部会に分かれ審議、検討を行なっておりますが、第3期計画の検証につきましては、各部門ごとに平成13年から17年の前期分の実績、平成19年までの取り組み状況と平成22年度までの実施計画を示しているところでありま

す。平成10年の第3期計画時は、日本経済もバブル崩壊後の低迷期でありましたが、ま

ちづくりを進める観点から5つの目標をまとめ、主要施策を24の中項目と75の小項目に分類して実施計画を定め、当該年度の予算総額に基づき総合計画に沿った形で執行しております。

また、毎年4月には、その年度の主要事業内容を「町のしごと」と題する小冊子を配布して、町民周知を行っております。

しかしながら、予期せぬ災害対応や緊急性の高い事業の実施により、計画事業を後年度に移行したり、平成17年度の3町合併の破綻により、後期計画策定自体の見直しを行なった事業もあり、達成状況や実施事業の内容については、各部会で再検証をお願いし、どのように第4期総合計画に反映させるべきかを含め審議をお願いしたいと考えて

います。

また、第3期計画の検証結果の報告につきましては、町民全戸に配布予定の第4期総合計画のダイジェスト版で第3期計画全体の総括を行いたいと思っております。

意識調査中の自由意見の記述のことについてであります。67.7%の回収率の中で202件の記入があり、今後のまちづくりを進める上で非常に参考になる意見が多数ありました。

内容の公表につきましては、それぞれの項目別に集約、整理してから行いたいと思っております。

10年前の計画策定時との比較検討も、必要なことでありますので、是非検討したいと思います。是非検討したいと思っておりますし、タイトルの文章も誰が読んでも解り易い文言の使用について、今後審議委員会でも十分に論議させていただきたいと思っております。



第3回定例会

・一般質問



高瀬 トシ工 議員

長雨、低温による

畑作物への影響は！

町長へ各作物とも減収が予想されるが、関係機関と連携し適切に対応したい。

長雨、低温による畑作物の

被害状況とその対応について

【質問】農作物生育期における長雨、低温、日照不足による被害状況とその対応、更に本町農業の展望について伺います。

【質問】農作物生育期における長雨、低温、日照不足による被害状況とその対応、更に本町農業の展望について伺います。

【答弁】（町長）

現状として7月の降雨量は平年の283%、日照時間は55%、平均気温も2度下回る異常な天候でありました。

そこで8月7日、町、農協、普及センター等から成る佐呂間町生産担当者会議で湿潤被害調査を実施し、収穫期の小麦を除く作物の生育状況調査を実施しました。

その結果、それぞれの作付け作物で1〜4割に湿潤、黄色くなった状態があり、青果用力ポチャは10日遅れで2割以上の減収が予測されております。

共済制度の調査も開始し始めており、国の対策の緑けた、青けた、黄色けたの対応につ

いても備えをしておりますが、今後の好天を願っている所であります。

また、道農政部による道天候不順等農業対策連絡協議会による検討、更に8月末には道とJAGグループ、道農業共済組合、その他の関係機関も連携して対応を検討中であります。

本町としても今後の収穫状況をしっかりと見定め、こうした道の動きと連携を図り、情報の収集と営農指導を図り、各農業関係機関とも連絡を取りながら適切に対応したいと考えております。

【質問】今年の場合、農家の経営環境や土地条件による格差が明確であり、湿害等で再生力を失った農地の改善、支援策が必要と考えます。

農業人口が減少する中、賃借の農地に投資をして土地改良等をするのは難しく、地力低下と共に本町の基幹産業の衰退が懸念されております。

農家の生産意欲保持のため、土造り対策を含めて本町農業の方向性をお示しいただきたいと思っております。

【答弁】（町長）

今年の異常気象では、議員ご指摘のとおり作物の生育にとつて、被害が大きい圃場とあまり被害がない圃場がはっきり分かれた状況です。

本町は粘土質の土壌が多く、近年コントラなど大型機械が農作業に入り、土壌の踏み固めなどで、暗渠排水の有効耐用年数が短縮されるような状況にあり、その中で湿害の被害が出たところです。

農業の基本は土づくりということ、基盤整備の認識をもち農業振興を図ってきましたが、更なる基盤整備の充実に努め、資金面での支援についても道、国に対して強く要請を行い、適切に対応したいと考えております。

また、佐呂間別川の河床高も排水阻害の要因と思われる、早急に調査し営農に支障のない体制にしたいと思っております。